

授業概要

近世から現代にいたるまでの英語圏文学、特にイギリスとアメリカの演劇と小説を、時代の流れに沿って紹介し、英語圏文学の発展とその背景にある社会や歴史を学ぶ。

文学史的な流れの中で、特に重要な作家と作品を取り上げていく。

古典的な文学だけでなく、SF、ファンタジー、ミュージカルといったジャンルにも目を向けていく。

優れた映画化作品があれば、積極的に活用する。

授業計画

第1回	イントロダクション：西洋文学の歴史
第2回	シェイクスピアとエリザベス朝
第3回	シェイクスピアの悲劇
第4回	シェイクスピアの喜劇
第5回	近代イギリス小説の誕生：18世紀から19世紀初頭
第6回	18世紀のイギリス小説作品
第7回	19世紀初頭のイギリス小説作品
第8回	ヴィクトリア朝小説概観：19世紀から20世紀初頭
第9回	ヴィクトリア朝のイギリス小説作品
第10回	20世紀のイギリス小説概観と作品
第11回	アメリカ小説概観：19世紀から20世紀
第12回	19世紀から20世紀初頭のアメリカ小説作品
第13回	20世紀のアメリカ小説作品
第14回	SF、ファンタジー、ミュージカルなど
第15回	まとめとノートチェック
第16回	期末試験

到達目標

英語圏文学の歴史に造詣を深め、文学作品を生み出した社会背景を理解する。

小説や演劇の面白さや楽しさを知る。

現代の文化への文学の影響を知ること、古典を身近なものと感じられるようにする。

履修上の注意

授業中に携帯、パソコン、電子機器の使用は認めない。

私語などの迷惑行為にはペナルティーを科す場合がある。

教育実習、就職活動で欠席する場合は証明書を提出すること

予習復習

講義形式であるから、ノートをとることは必須である。ノートを取り、きちんと整理することが予習復習となる。ノートは板書だけでは不十分なので、重要なことはメモをとる。授業で扱った作品に対する意見感想もノートにメモをしておく、のちに役に立つことがある。できれば、作品を読むか、映画化されたものを見るなどして、作品に直接触れてほしい。

ノートをきちんととっているかどうかのチェックを行う。

評価方法

期末試験80%、ノートチェックなどの平常点20%。

単なる出席は評価の対象にしない。

テキスト

使用しない。参考書は授業内で紹介する。